

生乳取引の多様化に係る 優良・先進事例集

平成26年12月

農林水産省生産局畜産部

牛乳乳製品課

目 次

1	放牧酪農実践によるプレミアム販売・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	「JA忠類 放牧畜産実践牧場」（北海道幕別町）	
2	生産から販売まで付加価値をつけた酪農経営・・・・・・・・・・	2
	「リバティヒル広瀬牧場」（北海道帯広市）	
3	地域と融和した安全・安心な6次産業化の実践・・・・・・・・・・	3
	「（有）金子ファーム」（青森県上北郡七戸町）	
4	地域に根ざしたこだわりの乳製品製造・・・・・・・・・・・・・・・・	4
	「関口牧場」（神奈川県横須賀市）	
5	地域の連携による競争力強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	「（有）フジタファーム」（新潟県新潟市）	
6	地元密着型の乳製品の加工販売・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
	「合同会社酪・北村牧場」（愛知県西尾市）	
7	収益性の高い多角的な酪農経営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
	「山田牧場」（滋賀県甲賀市）	
8	放牧主体の酪農経営と乳製品製造販売・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
	「（有）まつだ牧場」（岡山県岡山市）	
9	規模拡大と6次産業化への挑戦・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	「（有）赤松牧場」（香川県高松市）	
10	地域の活性化に取り組む酪農経営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
	「ヨコオ牧場」（佐賀県神埼市）	
11	地域との交流に取り組む酪農経営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
	「オオヤブデイリーファーム」（熊本県合志市）	

1 放牧酪農実践によるプレミアム販売

「JA忠類 放牧畜産実践牧場」(北海道幕別町)

1 概要

① 《概要・データ》

- ・乳用牛飼養頭数：搾乳牛263頭（5戸合計）
- ・生乳出荷量：1,754トン／年（全量がプレミアム販売の対象）（平成25年度）
- ・労働力：酪農部門11名（5戸合計）
- ・平成25年から、生産者5名が「放牧畜産実践牧場認証」（（一社）日本草地畜産種子協会認証）を受け、指定団体（ホクレン）と特色ある生乳のプレミアム取引を実施。
- ・よつ葉乳業共同購入グループから、NON-GMO飼料の給与、国産自給飼料使用率の向上、放牧認証等に基づく商品製造の要望を受け、同社が「よつ葉放牧生産者指定ノンホモ牛乳」として製品化。

② 《特徴的な取組》

- ・放牧面積や期間など、「放牧畜産基準」満たした飼養管理等を行っている。
- ・生乳は指定団体（ホクレン）に出荷。メーカーはプレミアム乳価を付加して購入し、指定団体は生産者の乳代にプレミアム分を反映することで、他の生産者に比べて高い乳代を実現している。
- ・放牧酪農牛乳生産基準の認証取得工場（よつ葉乳業(株)十勝主管工場）で製造。
「放牧酪農牛乳」製造での認証取得は、国内で3例目。



製品化された牛乳

(都道府県地図)



2 その他今後の課題、目標等

- ・年間を通じた生乳の安定供給体制確保。
- ・顧客満足度の向上を意識した牧場環境整備推進。

2 生産から販売まで付加価値をつけた酪農経営

「リバティヒル広瀬牧場」(北海道帯広市)

1 概要

① 《概要・データ》

- ・乳用牛飼養頭数：搾乳牛92頭
- ・生乳出荷量：701トン／年（うち自家処理13トン／年）（平成25年度）
- ・労働力：酪農部門3名、加工販売部門10名
- ・平成11年、自家の処理加工施設において牛乳乳製品を販売を開始。
- ・現在、主にジェラート（アイスクリーム）・ソフトクリーム・アイスケーキ・飲用牛乳を生産し、牧場敷地内の直営店等で販売。

② 《特徴的な取組》

- ・平成3年、ミルキングパーラーを導入した際、パーラーに見学室を併設し、消費者に開放する。現在は、講話・搾乳体験・アイスクリーム作り体験等も提供し、年間2,000人以上が訪れている。
- ・酪農体験者の要望から、牧場乳製品の製造販売の可能性に着目。平成11年に牧場敷地内に加工施設と販売店舗を設置し、ジェラート類の製造販売を始める。
- ・店舗やインターネット販売の他、フランチャイズにも取り組み始め、各地の北海道物産展にも出展している。加工・交流部門の売上は全体の約4割を占め、収益力の向上につなげている。

2 その他今後の課題、目標等

- ・酪農経営を基本とした上で、新たな乳製品加工に取り組み、消費者ニーズに応えていく。
- ・消費者との交流を21世紀の農作業と位置付け、継続して取り組む。



販売店舗



自家製ジェラート

(受賞暦等)

ホクレン夢大賞

農業者部門

『優秀賞』(平成7年)

2000北のくらし大賞

『奨励賞』(平成13年)

畜産大賞 地域振興部門

『優良賞』(平成21年)

(都道府県地図)



3 地域と融和した安全・安心な6次産業化の実践

「(有) 金子ファーム」(青森県上北郡七戸町)

1 概要

① <概要・データ>

- ・乳用牛飼養頭数：搾乳牛55頭（うち自家利用としてジャージー牛5頭）
- ・生乳出荷量：323トン／年（うち自家処理量30トン／年）（平成25年度）
- ・作付実績：デントコーン70ha、草地50ha、景観作物(菜の花、ひまわり)15ha
- ・労働力：酪農部門4名、加工販売部門15名
- ・平成6年に大規模法人経営「有限会社 金子ファーム」を設立。
- ・平成22年度、ジャージー牛の生乳の自家処理・販売を開始。
- ・現在、自家工房において、ジェラートの製造・販売を実施。

② <特徴的な取組>

- ・平成22年8月、自社飼育のジャージー牛から絞りとての生乳を低温殺菌し独自のミルクベースを作り、ジェラートに加工して販売する直営店「NAMIKI」を開業。新規雇用を生み出すとともに、町の新たな人気スポットとなる。
- ・地元の旬の果物や自家栽培の野菜等を練り込んだジェラートを手作りし提供。
- ・平成18年、ふれあい農場「ハッピーファーム」を開設。ファーム内にある県登録文化財の保全管理を行うとともに町民の憩いの場として提供。



ジェラート店「NAMIKI」



自家製ジェラート

(受賞暦等)
第60回全国農業コンクール(平成23年7月)
農林水産大臣賞 他

(都道府県地図)



2 その他今後の課題、目標等

- ・消費者に生産現場を理解してもらえるような取組を行っていくとともに、地域の憩いの場になるような空間を作り、来場者を増やし地域の活性化を図っていく。

4 地域に根ざしたこだわりの乳製品製造

「関口牧場」(神奈川県横須賀市)

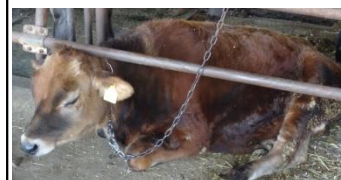
1 概要

① 《概要・データ》

- ・乳用牛飼養頭数：乳用牛25頭（うちホルスタイン17頭、ジャージー8頭）
- ・生乳出荷量：90トン／年（うち自家処理量41トン／年）（平成25年度）
- ・労働力：酪農部門3名、加工販売部門1名
- ・平成12年、自社農場の生乳の自家処理・販売を開始。
- ・現在、牛乳、アイスクリーム、ソフトクリームミックス（ソフトクリーム原料）を製造。

② 《特徴的な取組》

- ・平成12年に酪農教育ファーム認証牧場に認定。児童に手作りアイスクリームを食べさせたところ、保護者から自分達も食べたいと、要望があり、ソフトクリームの直売を開始した。
- ・ホルスタイン種とジャージー種の生乳を牧場独自の割合で合乳し、牛乳やアイスクリーム、ソフトクリームミックスを製造している。
- ・風味へのこだわりのため、飼料は乾牧草（チモシー）の他、ビール粕（地ビール）や豆腐粕など地域の未利用資源を活用している。
- ・牛乳は、風味を損なわないノンホモジナイズの低温殺菌牛乳を製造している。
- ・直売所でソフトクリームを購入したお客から口コミで評判が広がり、現在は約10店舗ほどに牛乳やソフトクリームミックスを供給している。
- ・堆肥は地域の野菜農家に供給し、環境にも配慮。また、野菜農家とのつながりが生まれ、ソフトクリームのフレーバーとして、地元野菜を使用している。



牧場の特徴である
ジャージー種



ソフトクリームの
直売所

＜受賞歴等＞

神奈川県優良生乳
生産牧場 他
(牛乳等の出荷先が
数々の賞を受賞)

(都道府県地図)



2 その他今後の課題、目標等

- ・所有する畑30aを牧草地に転換し、ふれあい牧場として整備することを検討。
- ・消費者からチーズを食べたいとの要望があり、チーズ製造に向けて準備中。

5 地域の連携による競争力強化

「(有)フジタファーム」(新潟県新潟市)

1 概要

① <<概要・データ>>

- ・乳用牛飼養頭数：経産牛65頭、育成牛15頭
- ・生乳出荷量：500トン／年（うち自家処理量25トン／年）（平成25年度）
- ・労働力：酪農部門3名、加工販売部門2名
- ・平成14年、(有)フジタファーム（酪農部門）の生乳の加工・販売を開始し、平成15年には(有)レガーロ（加工販売部門）を設立。
- ・酪農を通じた食育を行う体験交流館、自社乳製品及び地域の農産物の直売所も整備し、年間25万人程度の集客数を誇る。
- ・また、地域の稲作経営（米工房いわむろ）との耕畜連携により、地元の粗飼料（稲WCS、飼料用米、デントコーン）を活用。

② <<特徴的な取組>>

- ・生乳を低温殺菌して使用し、牛乳、ジェラート、チーズを製造。地元の旬の食材を使用し、季節に応じたジェラートを製造販売。
- ・地元企業との連携、直営店での地元産食材の活用、酪農教育ファームへの取組など、地域の連携・つながりを意識した経営により、地域全体での活性化に取り組む。

2 その他今後の課題、目標等

- ・6次産業化による販売力の強化、地域の連携による地域活性化等の取組が重要と考えており、A-FIVEの活用等により取組の更なる拡大に取り組む。
- ・(有)レガーロの直営店を中心に新たな直営店・直売所の設立を目指す。
- ・牧場や直営店を連携して、農業・周辺環境の魅力を引き出し、フジタファームの集客力を更に向上させ、地域全体の活性化を図る。



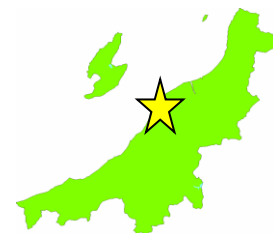
「レガーロ」
(ジェラート加工販売施設)



体験交流館

(受賞歴等)
第39回日本農業賞
個別経営の部
大賞（平成22年）

(都道府県地図)



6 地元密着型の乳製品の加工販売

「合同会社酪・北村牧場」（愛知県西尾市）

1 概要

① 《概要・データ》

- ・乳用牛飼養頭数：搾乳牛58頭
- ・生乳出荷量：411トン／年（うち自家処理量3.5トン／年）（平成25年度）
- ・労働力：酪農部門2名（北村牧場）、加工販売部門4名（合同会社 酪）
- ・平成21年に北村牧場と小笠原牧場（西尾市）が乳製品の加工販売を行う「合同会社酪」を設立し、北村牧場の生乳の自家処理、乳製品の販売を開始。
- ・加工販売部門ではソフトクリームミックス（ソフトクリーム原料）、プリン、生キャラメル、モッツアレラチーズ等を製造。
- ・製造した乳製品は、道の駅（にしお岡ノ山）等の直売所で販売。

② 《特徴的な取組》

- ・6次産業化により収益の補完を図るため、平成21年に自宅の敷地内に工房を設置し乳製品の加工販売を開始した。
- ・地元抹茶屋とのコラボレーションによるソフトクリームやプリン等、多様な製品を開発し、販売している。
- ・モッツアレラチーズ作り体験・牧場見学を行い、酪農及び国産乳製品の理解醸成・普及を実践している。
- ・マスコットキャラクターのネーミング募集したところ多数の応募があり、商品ラベル等に活用している。



工房



販売商品

（都道府県地図）



2 その他今後の課題、目標等

- ・6次産業化を収益の柱とするため、販路拡大及び工房の規模拡大を図る。
- ・牛乳乳製品の販売を地域活性化に活かすため、地域のお業種とのコラボレーションの更なる展開を行う。

7 収益性の高い多角的な酪農経営

「山田牧場」(滋賀県甲賀市)

1 概要

① 《概要・データ》

- ・乳用牛飼養頭数：170頭（うち経産牛100頭、育成牛70頭）
- ・生乳出荷量：950トン／年（うち自家処理量：200トン／年）（平成25年度）
- ・労働力：酪農部門5名、加工販売部門4名
- ・平成10年、部分委託制度を活用し、自社農場の生乳の自家処理・販売を開始。
- ・以来、酪農経営に牛乳・加工品製造販売及び観光牧場を組み合わせた多角経営に取り組む。
- ・現在、ヨーグルト、プリン、ソフトクリーム、チーズ、チーズケーキ等の加工販売を実施。

② 《特徴的な取組》

- ・低温殺菌牛乳の販売を主軸に、プリン等の加工品をインターネット、大手スーパー、アウトレットモール等を通じて県内外に販売。体験牧場の来場者からの生の声を生かした新商品開発を実施。こうした取組の結果、粗収益の約2割を加工販売が占める。
- ・耕畜連携に取り組んでおり、地元産の稲WC Sを購入し、堆肥をほ場に散布するとともに、トウモロコシの代替として飼料用米を給与（玄米2kg/頭）。
- ・「食といのちの大切さを学ぶ場」をテーマに、消費者向け体験牧場及び酪農教育ファーム活動に取り組む。



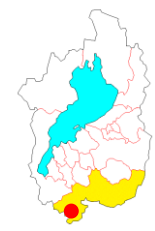
プリン、バター等



各種チーズケーキ

(受賞暦等)
第50回滋賀県優秀農
家表彰・農林水産大
臣賞(平成24年)

(都道府県地図)



2 その他今後の課題、目標等

- ・特色あるチーズ製造を行うため、ブラウンスイスや水牛の導入とチーズ製造施設の拡充を計画しており、6次産業化の取組を拡大する方針。

8 放牧主体の酪農経営と乳製品製造販売

「（有）まつだ牧場」（岡山県岡山市）

1 概要

① 《概要・データ》

- ・乳用牛飼養頭数：120頭（うち経産牛90頭、育成牛30頭）（ほか黒毛和牛80頭）
- ・生乳出荷量：769トン／年（うち自家処理量8トン／年）（平成25年度）
- ・労働力：酪農部門4名、加工販売部門5名
- ・昭和35年に法人化、昭和46年に現在の岡山市へ移転。
- ・平成17年、自社農場の生乳の自家処理・販売を開始。
- ・現在、年間を通してジェラートを製造・販売。

② 《特徴的な取組》

- ・津山市から岡山市の郊外へ移転した後から、放牧を主体にした酪農経営を開始。
- ・放牧地では乳用育成牛、乾乳牛及び和牛繁殖牛を飼養し、自家育成で母牛の更新や増頭に取り組む。
- ・自家製造による収益向上を図るため、平成17年にミルク工房を開設し、毎朝ジェラートを製造。全20数種類の中から、日替わりで10種類を販売。
- ・地元中学生の課外授業、酪農大学校生の実習受入等畜産PRと担い手育成に貢献。



放牧風景



ジェラート

（受賞暦等）
平成26年度（第54回）
岡山県農林漁業近代
化表彰・畜産部門

2 その他今後の課題、目標等

- ・SNS（コミュニティ型Webサイト）の活用などにより、牧場に興味を持ってもらい来場数と売上の増加につなげる。

（都道府県地図）



9 規模拡大と6次産業化への挑戦

「(有) 赤松牧場」(香川県高松市)

1 概要

① 《概要・データ》

- ・乳用牛飼養頭数：220頭（うち経産牛150頭、育成牛70頭）
- ・生乳出荷量：1,361トン／年（うち自家処理量2トン／年）（平成25年度）
- ・経産牛1頭当たり年間出荷乳量：11,000kg
- ・労働力：酪農部門10名、加工販売部門3名
- ・昭和43年に酪農経営を開始し、平成15年に法人化。
- ・平成22年、自社農場の生乳の自家処理・販売を開始。
- ・現在、年間を通してジェラートを製造・販売。

② 《特徴的な取組》

- ・事業の多角化、収益性の向上のため、平成22年にジェラートショップをオープンさせ、消費者からの情報を牧場経営にフィードバックし、乳質や飼養環境の改善につなげている。
- ・フリーバーン牛舎、簡易アブレストパーラー（搾乳室に6頭の牛が横並びに進出し、搾乳後個々に退出）等を導入し、先進的な酪農経営を行う地域のリーダー的存在。
- ・乳用後継牛は全て自家育成により確保している。



畜舎内



ジェラート販売店

2 その他今後の課題、目標等

- ・平成26年11月に高松市内（さぬきこどもの国：空港隣接）に2号店を出店したところであり、今後は直営店を活用し、売上の増加につなげる。
- ・平成27年に成牛を300頭に規模拡大の予定（土地は確保済）。

(都道府県地図)



10 地域の活性化に取り組む酪農経営

「ヨコオ牧場」(佐賀県神埼市)

1 概要

① ≪概要・データ≫

- ・乳用牛飼養頭数：ホルスタイン種30頭（経産牛22頭、育成牛8頭）
- ・生乳出荷量：172.4トン／年（うち自家処理量：90.4トン／年）（平成25年度）
- ・労働力：酪農部門3名、加工販売部門7名
- ・自社農場の生乳を使用した特選牛乳、ミルクコーヒー、アイスクリーム、ヨーグルト、フレッシュチーズ、熟成チーズの製造・販売を実施。

② ≪特徴的な取組≫

- ・小規模処理プラントを整備し、風味、栄養がそのまま生かせる低温殺菌・ノンホモジナイズにこだわり製造・販売を開始し、アイスクリームについても天然素材にこだわっている。
- ・平成8年度に直営販売所を開設し、平成10年度からヨーグルト、チーズを製造・販売、平成24年度にはネットショップも開設している。
- ・酪農教育ファームの実施、地域の特産物とのコラボレーション製品の開発、製造といった取組により、地域の情報発信、活性化に寄与している。



販売所「ミルン」



販売所内の様子

(受賞暦等)
平成7年優良ふるさと
食品コンクール 新技
術・新製品開発部門 食
品産業センター会長賞

(都道府県地図)



2 その他今後の課題、目標等

- ・インターネット通販等を活用し、6次産業化事業拡大のため販路拡大を目指す。
- ・酪農部門においては、自家育成による高泌乳能力群(12,000～13,000kg牛群)の構築を目指す。

11 地域との交流に取り組む酪農経営

「オオヤブデリーファーム」(熊本県合志市)

1 概要

① <<概要・データ>>

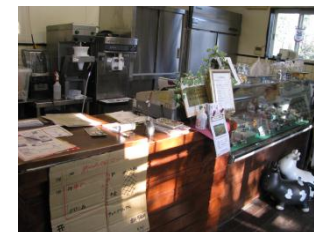
- ・乳用牛飼養頭数：93頭（ホルスタイン種74頭、ジャージー種17頭、ブラウンスイス種2頭）
- ・生乳出荷量：436.8トン／年（うち自家利用量：3.5トン／年）（平成25年度）
- ・労働力：酪農部門5名、加工販売部門4名
- ・平成13年、自社農場の生乳の自家処理・販売を開始。
- ・現在、ヨーグルト、ジェラート15種類、ソフトクリーム1種類の製造・販売を実施している。

② <<特徴的な取組>>

- ・平成13年に加工販売店（チェリーブロッサム）を開店し、アイスクリームの製造・販売を開始。
- ・平成23年には、ヨーグルトの製造設備を導入。オメガ3脂肪酸を強化した自家産生乳100%使用の製品の販売を開始。
- ・ヨーグルトやジェラートを含めた全ての製品は、地域の物産店へ販売するとともに、全国配送も手掛けている。
- ・平成2年から、搾乳体験や地域住民の視察の受入れを開始するとともに、近隣の子供達にトウモロコシ園場で作った迷路畑を無料開放。平成12年には酪農教育ファームの認証を取得。



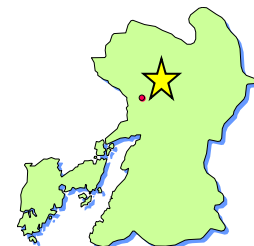
乳製品販売店「チェリーブロッサム」



販売店内の様子

(受賞暦等)
熊本農産物加工食品
コンクール銀賞
毎日農業記録賞最優秀賞

(都道府県地図)



2 その他今後の課題、目標等

- ・6次産業化を事業の柱とするため、販売を拡大し、生乳の自家処理量を今後大幅（9.6トン／年を目標）に増加させる計画。